国・県・市町村などの統計

1. 国・県・市町村で行う統計調査に協力しよう

皆さんの学校でも、学級の係活動や生徒会活動の中で、遅刻調査・忘れ物調べ・文化祭のアンケートなどのいろいろな調査が行われますね。そのような調査のとき、その目的を十分に考えないで、適当に○印をつけたり、いいかげんに記入したりしたことはありませんか。もし、みんなが協力しないで、正確に記入しなかったら、正しい調査結果は得られません。

国・県・市町村で行われる統計調査は、規模の大きいものが多く、長い期間にわたって綿密周到な手順で行われ、たくさんの経費と労力が費やされます。そして、その結果はいろいろな方面で利用されています。

ところが、調査を受ける側が、調査を拒否したり、あるいは間違っただけを答えたり、記入したりすると、統計調査の意義はまったく失われて、その結果を基礎にして行う国・県・市町村のいろいろな仕事は効果のないものとなります。

しかし、調査を受ける側には、正しい記入申告をしたことによって、税金が増えることとか、プライバシーが他に漏れることとかに不安を感じている人が割合に多いものです。

今日の統計調査、ことに国・県・市町村で行う統計調査では、調査した事柄は、統計を作るためにだけ使い、調査票に記入されたことが他に漏れることはありません。また、調査を受ける側の負担が少しでも軽くなるように、調査票の質問内容を簡単にし、特にプライバシーに属する項目はなるべく落すようにするとともに、似たような内容の統計調査は一つにまとめて、調査回数も少なくするようにされています。

私たちは、統計調査が世の中をよくするためにどれだけ役立っているかをよく理解し、統計調査が正しく行われるように協力することが大切です。また、家の人にも、皆さんが学んだ統計調査の目的・意義について説明をしてあげ、統計調査の対象になったときは、協力してもらおうようにしましょう。

特に、標本調査の対象となったところは、統計理論上の無作為抽出法によって、何百・何千という調査対象の代表として選ばれたのですから、特に正確に記入することが大切です。

す。そうでなければ、結果に及ぼす影響は何百倍・何千倍にも大きくなってあらわれてきます。ですから、標本調査に当たったときは、ことのほか責任が重いといえるでしょう。

2. 統計はどのように利用されているだろう

統計はもともと、国がいろいろな仕事を行う必要から人口や農産物の収穫高を調べたことから始まったといわれています。今日でも、統計の大部分は、国・県・市町村の行政上の利用のために作られているといってもよいでしょう。

国・県・市町村における統計の利用は、いろいろな方面にわたっていますが、その中で、最も重要な利用の仕方は、分析・予測・計画・実施のための利用です。

これには、二つの方法があり、一つは、いろいろな行政分野の様子を統計を使って表現・分析し、その分野に対して、国・県・市町村がどのようなことをしているか、または、しようとしているかを一般の人にわかりやすく説明する方法です。

例えば、国で発表されているいろいろな白書がもっとも良い例です。白書には、経済白書、食料・農業・農村白書、水産白書、通商白書、厚生労働白書・国土交通白書・防衛白書・国民生活白書などたくさんありますが、これらには、統計調査の結果や各種の加工した統計が幅広く利用されています。

もう一つの利用方法は、予測、あるいは、計画のための利用で、島根県においても、各種の統計を利用して、人口とか所得（収入）などを予測することによって長期計画の基本的な骨組みを作り、その上でいろいろ具体的な計画が作られているのです。

なお、以上のような分析・予測・計画のための利用でなくても、国・県・市町村のいろいろな仕事の基礎には、ほとんどすべての分野で、何らかの統計が参考にされています。それだけに具体的な例は数限りがありませんが、例えば、警察官をどこに何名配置するかを決めるには、各地域別の人口分布統計が一つの参考になっていますし、学校・幼稚園・保育所を新設する場合にも、学校基本調査や人口動態統計調査などの結果が参考にされています。